

「苗」研究のエントリーシート

研究テーマ	明治期の渡米案内書研究		
研究代表者	加賀谷 真澄	役職	助教
フリガナ	カガヤ マスミ	学位	修士（文学）
学科等	総合科学教育研究センター	Eメール	kmasumi@akita-pu.ac.jp
主な共同研究者(学内)	無し		
主な共同研究者(学外)	石井登（早稲田大学 教育・総合科学学術院非常勤講師）		
研究の内容			
<p>本研究は、明治期に私費で米国へ留学しようとした貧しい若者たちに向けて書かれた渡米の手引き書を網羅的にリスト化し、当時の日米の社会状況と合わせて内容を分析する。そうすることで1) 米国留学を目指した若者たちの出身階層や渡米前後の生活環境を立体的に浮かび上がらせ、彼らが直面した困難と、それを切り抜けた方法を明らかにし、さらに2) 当時の日本社会が期待した「海外雄飛する青年像」を明らかにする。</p> <p>明治にアメリカへ渡った留学生のうち、岩倉使節団に伴われ渡米した山川捨松や津田梅子、その他政府の公的支援を受けて渡米した留学生たちについては、すでに複数の研究書が出されている。彼らは日本を代表してアメリカに送られた若者であり、資料と記録を残せる立場にいた。一方、独力で渡米を試みた貧しい階層の若者たちは、学資を貯めるため、就労しなければならなかった。彼らは学生としてより、出稼ぎ人として統計資料上に名を残す存在であり、その実像に迫ることは困難であった。</p> <p>本研究は、旅費や学費を独力で調達し、ゼロから英語力を身につける工夫をこらした私費留学生の渡米前後の姿を、渡米の手引き書を分析することで明らかにする。私費留学生たちは、学業に集中する期間よりも就労して学資を稼ぐ期間が長く、学生か労働者かはっきりしないため、これまで移民の中で明確に区分されることがなかった。労働と学業を両立しようとした彼らの生活スタイルは、独特なものとなった。渡米の手引き書では、一般家庭の家事手伝いをし、合間に学校へ通うスクールボーイという生活スタイルや、学校の長期休暇に季節労働者として働く方法などがすすめられているが、これらの方法は、実際に苦学生としてアメリカで暮らした経験者によって書かれているため、具体的であり、アメリカの就労学生の記録として読むこともできる。</p> <p>本研究は、1901年から約6年の期間にブームとなった渡米案内関連書の内容を整理し、生活全般にわたって詳細に記述された手引きからみえる、アメリカにおける就労学生の実像を分析する。また、渡米の手引き書が誰に向けられて書かれたものなのか、海外雄飛が期待された若者は誰なのかを、日米の社会的コンテクストの中に置き直すことによって、その具体的な対象を明らかにする。</p>			

研究の独自性・アピール点

現在、渡米の手引き書は、『近代欧米渡航案内記集成』第一巻～第一二巻（ゆまに書房）の中に収録された資料の他に、国立国会図書館の近代デジタルライブラリーで公開されているものがある。これらは出版された当時の体裁まま掲載・公開されており、解釈や意味づけはまだなされていない。本研究は、日米の社会的コンテキストの中に手引き書を置いてみることで、当時の社会状況と渡米ブームとの関係、そして、渡米前後の若者の姿をより明確に捉えることを目指す。

期待される成果・波及効果

本研究の成果は、領域を超えた基礎データとなることが予想される。文学や社会史、移民史において、本研究は基礎的な一次資料を提供できるだろう。また、渡米の手引き書には、渡米前後の英語学習方法が提案されており、初期英語教育の歴史という観点からも、興味深い資料となると思われる。渡米の手引き書は、明治版「留学のためのガイドブック」であるだけでなく、アメリカへ渡るには不利な立場の若者たちに向けた励ましの書でもある。そのため、若者の覚悟を決めさせ、強い決意を問う内容は、現在の若者をも鼓舞する力を持つ。本研究の成果は、学术界のみならず、一般向けの、英語学習をモチベートする読み物としても広く受け入れられるだろう。

関連する主な業績

目的地「桑港(サンフランシスコ)」—海外雄飛の先にみえるもの
中華日本研究 第3期、85-102(2011)

キーワード

明治、海外雄飛、渡米、留学、スクールボーイ